

## 『第2種電気工事士ポイントレッスン』訂正表

以下の誤りがございました。訂正してお詫び申し上げます。

2009年4月25日発行分以前

訂正箇所	訂正前	訂正後
P78 下から2行目の数式	$\sqrt{3} V_s I_s = 3 VI$	$\sqrt{3} VI = 3 V_s I_s$
P141 15行目(四つ目の●の行)	電線の支持点間の距離は,15[m]以下であること。	架空で施設する場合の電線の支持点間の距離は,15[m]以下であること。
P147 〈問6〉解説 3～4行目	…60[V]以下,電線の支持点間距離は1[m]以下で施設する。	60[V]以下で施設する。 (左の赤字部分を削除)
P176 表中「電線」 1～2行目	ゴム絶縁電線,合成樹脂絶縁電線,蛍光灯電線,ネオン電線	ゴム絶縁電線,合成樹脂絶縁電線 (左の赤字部分を削除)
P176 表中「電線」の「ケーブル」右欄 1～2行目	公称断面積が100[mm <sup>2</sup> ]以下、心線が7本以上の外装がゴムまたは合成樹脂	公称断面積が22[mm <sup>2</sup> ]以下、心線が7本以上 (以下削除)
P176 表中「ヒューズ」 1行目	糸ヒューズ,温度ヒューズ	温度ヒューズ (左の赤字部分を削除)
P176 表中「機械器具」 1～2行目,4行目 「ベル用変圧器, ネオン変圧器」「かご形三相誘導電動機」の項目		左記3項目すべて、 まるごとP177の表6-3 「機械器具」の部分に移動。

2008年5月25日発行分以前

訂正箇所	訂正前	訂正後
P170 表中右欄 中段	ネオン工事にかかわる特殊電気工事資格者	ネオン工事にかかわる特殊電気工事資格者
	非常用予備発電装置にかかわる特殊電気工事資格者	非常用予備発電装置にかかわる特殊電気工事資格者

2008年3月15日発行分以前

訂正箇所	訂正前	訂正後
P23 中段の数式 (上から4つ目の数式)	$V_a = I_2 R_4 \dots$	$V_d = I_2 R_4 \dots$
P74 <問2> 3つ目の数式	2.5	2.5
P125 図中	C種設置工事	D種設置工事

2007年5月15日発行分以前

訂正箇所	訂正前	訂正後
P15 下から2行目の数式 (左)	$= \frac{1}{\frac{R_2}{R_1 \cdot R_2} + \frac{R_1}{R_1 + R_2}}$	$= \frac{1}{\frac{R_2}{R_1 \cdot R_2} + \frac{R_1}{R_1 \cdot R_2}}$
P44 4行目の数式	$\frac{P_2}{P_1} = \frac{3V^2}{2R} = \frac{3V^2}{2R} = \frac{R}{3V^2} = \frac{1}{2}$	$\frac{P_2}{P_1} = \frac{3V^2}{2R} = \frac{3V^2}{2R} \times \frac{R}{3V^2} = \frac{1}{2}$
P72 問2、問3の図		下の負荷の右下に C と書き入れる

2006年12月25日発行分

訂正箇所	訂正前	訂正後
P39 6~7行目	相電圧=線間電圧 ( $\dot{i}_s = \dot{i}$ ) 相電流=線電流 ( $\dot{v}_s = \dot{v}$ )	相電圧=線間電圧 ( $\dot{v}_s = \dot{v}$ ) 相電流=線電流 ( $\dot{i}_s = \dot{i}$ )
P42 <問2> 4行目	$B = \pi \cdot \left(\frac{3.2}{2}\right)^2 = 8 \text{ (mm)}$	$A_2 = \pi \cdot \left(\frac{3.2}{2}\right)^2 = 8 \text{ (mm)}$
P63 中段	②負荷に電動機が~幹線の許容量が与えられていない場合	②負荷に電動機が~幹線の許容電流が与えられていない場合
P128 14行目	~定格容量 3 [kV・A] ~	~定格容量 3[kV・A] ~